

令和7年度東部地区道徳教育研究協議会

松伏町立松伏第二中学校

【B部会（2学年）】

主 題 名 よりよい社会の実現
内容項目 C 社会参画、公共の精神
教 材 名 「すべての人に読書の楽しさを」
（彩の国の道徳「未来に生きる」）



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 短い時間で効果的な導入であった。実際に体験し、気持ちを共感していることもよかった。
- 教材を自分事として捉えることが難しい教材であったが、教師の発問で自分事として考えられるようにしていた。
- ワークシートを簡略化することで、生徒同士の対話の時間を確保することもでき、考えを深められた。
- ICTを活用し、テキストマイニングを行い活用したことは、視覚的に理解しやすかった。
- 教師と生徒のやりとりが続いていたので、生徒の意見を共有し、生徒同士の対話が増えていくと、より活発になる。

2 指導講評

- 生徒とのやり取りから創られた授業。多面的多角的に考えるためには、対話が大切である。
- 導入は効果的であった。これができるのは、学習指導要領を読み込み、県学調、アンケートなど実態を的確に把握できているからである。実態と教材の距離を埋めるために、総合的な学習の時間の学びを想起することも考えられる。
- 生徒の反応を予想しておくことで、生徒の中から問題意識をもたせることができる。生徒からどんな発言を出させたいかを考えることで、発問や補助発問について考えることができる。
- 範読前には、条件情況の説明を行い、読む視点を与える。
- 生徒の心をゆさぶる発問は、本文に描かれてないことで自らの体験を想起させることが大切。生徒の対話的な学びが増えるとよい。そのためには、ワークシートの精選が必要である。
- 思考ツールはそれぞれのよさを生かし、活用を。
- 評価については、教師が見取ることができる視点で示し、道徳ノートで積み重ねていく。
- 特別活動との違いを考え、発問を検討する。

